

# 「指導手引き(改訂版)」と現行モデコアSBO対比表 (案)

(2017年7月30日 日薬全国会議版)

## 本資料について

1. 本資料は、平成31年からの改訂カリキュラムの実習に備えて、本会作成の「薬局薬剤師のための薬学生実務実習指導の手引き(改訂版)」(以下「指導手引き(改訂版)」)の補助資料として作成したものです。  
本会作成の「指導手引き(改訂版)」の内容は改訂カリキュラムに基づいておりますが、平成30年までの実務実習は、基本的に現行の「実務実習モデル・コアカリキュラム」(現行モデコア)に基づいて、現行通りに行われます。この対比表は、「指導手引き(改訂版)」を用いてOBEに基づく評価を試行的に行う(トライアル実習)場合に、現行モデコアのSBOsが「指導手引き(改訂版)」の、「薬局実習領域」の「STEP」及び「具体的目標」に該当するかが分かるよう、指導薬剤師向けに一覧表にしてまとめたものです。
2. 「指導手引き(改訂版)」では、実際の薬局業務に対して、それぞれに「具体的目標」を定めています。本資料では、それらの「具体的目標」に対して、現行モデコアの(1)薬局アイテムと管理、(2)情報のアクセスと活用、(3)薬局調剤を実践する のLSにそれぞれに当てはめています。
3. 本資料に記載している、「具体的目標」についての詳細は、「指導手引き(改訂版)」をご参照ください。
4. 右側の「指導手引き(改訂版)」の「具体的目標」についての到達が確認(視点や評価の基準等を活用)できたら、左側の「現行モデコアの到達目標」に到達できたと考えられます。

※現行モデコアのうち、本表に掲載されていないLS及びユニットは以下の通り。これらの到達度確認は適宜行ってください。

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| P102 | ◎代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。   |
| P103 | ◎代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。      |
| P201 | ◎医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度) |
|      | ◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度) |
| (4)  | 薬局カウンターで学ぶ                 |
| (5)  | 地域で活躍する薬剤師                 |

「指導手引き(改訂版)」と現行モデコアSBO対比表(案)

現行「実務実習モデル・コアカリキュラム」	
(3) 薬局調剤を実践する	
LS	到達目標
<b>《保険調剤業務の全体の流れ》</b>	
P301	◎保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 ◎保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。
<b>《計数・計量調剤》</b>	
P309	◎薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。 ◎処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能)
P310	◎代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
	◎医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
	◎代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
	◎同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。
P311	◎異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
	◎代表的な同種・同効薬を列挙できる。
P312	◎代表的な医薬品の色・形、識別コードから識別できる。(技能)
	◎一回量(一包化)調剤を必要とするケースについて説明できる。
P313	◎一回量(一包化)調剤を実施できる。(技能)
	◎錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
P314	◎散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能)
	◎調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる。(技能)
P314	◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。(技能)
	◎特別な注意を要する医薬品(抗癌性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)

「指導手引き(改訂版)」  
A.保険調剤ができる《医薬品の調製》

STEP	目標	基本的な医薬品の調製・管理ができる
STEP 1	パフォーマンスレベル	基本的な処方箋の計数・計量調剤ができています。
	具体的目標1	単純な処方箋(2~3種類で構成される処方、一包化や粉砕を除く)について計数・計量調剤ができる。
STEP 2	目標	<b>工夫が必要な調製・調剤ができる</b>
	パフォーマンスレベル	一般的な計数・計量調剤や調剤上の工夫等の対応ができています。
STEP 3	具体的目標1	多種多様な処方(一包化・粉砕を含む)についてある程度スムーズな流れで計数・計量調剤ができる。
	目標	<b>患者の状況に合わせた調剤ができる</b>
STEP 4	パフォーマンスレベル	複雑な処方箋であっても再現性よく、スムーズかつ正確な調剤ができています。個々の患者の病状や状態を確認し、調剤上の工夫を提案できている。
	具体的目標1	患者の病態を考慮した調剤上の工夫を提案し、複雑な処方箋の計数・計量調剤が何度も同じように(再現性のある)素早く正確にできる。
STEP 3	目標	<b>より本格的な医薬品の調製や供給・管理ができる</b>
	パフォーマンスレベル	アドヒアランスを考慮し、新たに収集した患者情報や薬剤服用の記録等を参照して医薬品の調製ができています。
STEP 4	具体的目標1	薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理が、業務の流れを妨げず適切に実践できる。

(1) 薬局アイテムと管理	
<b>《薬局アイテムの流れ》</b>	
P101	◎薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。
	◎薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。 ◎薬局アイテムの流通機構に係わる入庫の仕事を元とし、薬剤師業務と関連づけて説明できる。
<b>《薬局アイテムの管理と保存》</b>	
P104	◎医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。
	◎納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる。
	◎薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。(知識・技能)
<b>《特別な配慮を要する医薬品》</b>	
P105	◎麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。
	◎毒物、劇物の取扱いについて説明できる。
	◎法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)
(2) 情報のアクセスと活用	
<b>《情報の入手と加工》</b>	
P202	◎医薬品の基本的な情報源(厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など)の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。(知識・技能)
	◎基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる。(技能)
P203	◎処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)
P204	◎薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)
P205	◎緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。
P207	◎医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。(知識・技能)

STEP	目標	基本的な医薬品の調製・管理ができる
STEP 1	パフォーマンスレベル	医薬品の供給について薬局内の基本的な医薬品の在庫管理ができています。
	具体的目標2	薬局で求められる基本的な医薬品の供給および管理ができる。
STEP 2	目標	<b>工夫が必要な調製・調剤ができる</b>
	パフォーマンスレベル	医薬品の性質を理解し、薬局の管理手順に従い供給・管理ができています。
STEP 3	具体的目標2	緊急時を含めて、医薬品を適切に供給することを行い、麻薬・向精神薬等についても正しく保管できる。
	目標	<b>患者の状況に合わせた調剤ができる</b>
STEP 4	パフォーマンスレベル	薬局で使用されるすべての医薬品を適切な手順で記録し、保管ができています。
	具体的目標2	医薬品の供給・管理業務の意義や目的をきちんと認識し、業務に適切に反映できる。
STEP 4	目標	<b>より本格的な医薬品の調製や供給・管理ができる</b>
	パフォーマンスレベル	薬局で使用されるすべての医薬品やその他のアイテム(医療資器材など)を適切な手順で記録し、保管ができています。
STEP 4	具体的目標1	薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理が、業務の流れを妨げず適切に実践できる。

※「指導手引き(改訂版)」で設定した「パフォーマンスレベル」は、複数のパフォーマンスから構成されているため、この表においては、現行モデコアのLSIに合わせて該当する部分を抜き出している。

「指導手引き(改訂版)」と現行モデコアSBO対比表(案)

現行「実務実習モデル・コアカリキュラム」	
(3) 薬局調剤を実践する	
LS	到達目標
<b>《保険調剤業務の全体の流れ》</b>	
P301	◎保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 ◎保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。
<b>《情報の入手と加工》</b>	
P206	◎問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。(知識・技能)
<b>《処方せんの受付》</b>	
P302	◎処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。 ◎処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる。 ◎初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。
<b>《処方せんの鑑査と疑義照会》</b>	
P305	◎処方せんが正しく記載されていることを確認できる。(技能) ◎処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互
P306	◎薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。(知識・技能)
P307	◎疑義照会の行い方を身につける。(知識・態度)
P308	◎疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(技能・態度)
<b>《計数・計量調剤の鑑査》</b>	
P315	◎調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)
<b>《安全対策》</b>	
P328	◎代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度)
P329	◎名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。
P330	◎特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる。
P331	◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。

「指導手引き(改訂版)」 B.保険調剤ができる<<処方監査・医療安全>>		
STEP 1	目標	基本的事項に留意し、医療安全に配慮した処方箋及び調剤薬の監査ができる
	パフォーマンスレベル	施設内の医療安全管理指針等に基づき、単純な処方箋について記載上の不備を指摘し、疑義照会すべき内容とその手順を把握し指導薬剤師の助言に基づいて実践できている。
	具体的目標 1	処方箋および調剤薬の監査を行い、リスク回避のための対応方法を実践できる。
	具体的目標 2	施設における医療安全の基本を確認し、遵守できる。
STEP 2	目標	医薬品情報に基づいて調剤薬の監査ができる
	パフォーマンスレベル	基本的な医薬品情報および患者情報に基づいて、すべての処方箋と調剤薬に関して適切な監査ができ、必要に応じて疑義照会が実践できている。またインシデント事例に基づいた防止策の提案ができてすべての処方箋と調剤薬に関して医薬品情報を基に適切に監査ができ、必要に応じて疑義照会を実施できる。
	具体的目標 1	医療安全に配慮した業務を実践できる。
	具体的目標 2	医療安全に配慮した業務を実践できる。
STEP 3	目標	患者情報に基づいて処方内容の監査ができる
	パフォーマンスレベル	収集した患者情報(面談・薬歴・お薬手帳等)から得られた情報と薬学的知見を統合して処方内容の監査ができている。必要に応じて、自らの判断で多職種に情報提供ができている。インシデント事例発生後の対応について考察できている。
	具体的目標 1	医薬品情報および患者情報をもとに、処方内容を監査できる。
	具体的目標 2	医師や医療スタッフと患者に関する情報を共有(疑義照会を含む)できる。
	具体的目標 3	安全管理指針に従った一連の監査業務を自らの判断で行うことができる。
STEP 4	目標	医療安全の視点を考慮し、患者の状態を評価した上で監査ができる
	パフォーマンスレベル	患者の病状の経過・生活環境・ナラティブを考慮しながら、処方の妥当性を判断できている。必要に応じて、医療安全の見地からより適切な処方設計の提案ができている。
	具体的目標 1	患者の病態およびナラティブ、治療の科学的根拠に基づいて、処方の妥当性を判断できる。
	具体的目標 2	医療安全の見地から適切な処方設計を提案できる。

## 「指導手引き(改訂版)」と現行モデコアSBO対比表(案)

現行「実務実習モデル・コアカリキュラム」	
(3) 薬局調剤を実践する	
LS	到達目標
<b>《保険調剤業務の全体の流れ》</b>	
P301	◎保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 ◎保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。
<b>《処方せんの受付》</b>	
P302	◎処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。 ◎処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる。 ◎初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。
P303	◎初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。
P304	◎処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度) ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度) ◎患者が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) ◎患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる。(技能)
<b>《処方せんの審査と疑義照会》</b>	
P306	◎薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。(知識・技能)
P307	◎疑義照会の行い方を身につける。(知識・態度)
P308	◎疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(技能・態度)
<b>《服薬指導の基礎》</b>	
P316	◎適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能) ◎薬歴管理の意義と重要性を説明できる。
P317	◎薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能) ◎薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
P318	◎妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。
P319	◎患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能)
P320	◎自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
<b>《服薬指導入門実習》</b>	
P321	◎指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能) ◎薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能) ◎患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能) ◎お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)
<b>《服薬指導実践実習》</b>	
P322	◎患者に共感的態度で接する。(態度) ◎患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能) ◎患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度) ◎患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度) ◎入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)
P323	◎調剤録の法的規制について説明できる。 ◎調剤録への記入事項について説明できる。 ◎調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
P324	◎調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。
P325	◎処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
<b>《調剤報酬》</b>	
P326	◎調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)
P327	◎薬剤師の技術評価の対象について説明できる。
<b>(6) 薬局業務を総合的に学ぶ</b>	
<b>《調剤録と処方せんの保管・管理》</b>	
<b>《総合実習》</b>	
P601	◎薬局業務を総合的に実践する。
P602	◎患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。(態度) ◎薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。(態度)

## 「指導手引き(改訂版)」 C.保険調剤ができる《服薬指導》

STEP 1	目標	<b>基本的な患者対応及び情報収集と処方解析ができる</b>
	パフォーマンスレベル	コミュニケーションの基本に基づき、患者から薬物治療に係る基本的な情報を収集し、薬物治療に係る基本情報を患者に提供できている。
	具体的目標1	服薬指導を行うために必要な情報を収集できる。
	具体的目標2	代表的な疾患の治療薬に関する情報(用法・用量、有効性、安全性、使用上の注意等)の収集と加工ができる。
STEP 2	目標	<b>基本的な服薬指導ができる</b>
	パフォーマンスレベル	患者と面談し収集した情報やさまざまな情報源から必要な項目を抽出でき、さらに服薬指導時に活用できている。その結果を適切に記録できている。
	具体的目標1	患者面談で収集した代表的な疾患の薬物治療に関する事項に応じて、資料を用いて説明できる。
	具体的目標2	収集した患者や医薬品に関する情報に基づいた服薬指導を行うことができる。
STEP 3	目標	<b>代表的な疾患の治療に関して、薬学的知見に基づいた服薬指導が実践できる</b>
	パフォーマンスレベル	過去の記録、最新の医薬品情報および患者との面談から得た情報を基に指導に必要な項目を抽出・分析し、服薬指導時に活用できている。
	具体的目標1	過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握できる。
	具体的目標2	患者の問題点に対する解決策に基づき、患者が理解できるように指導できる。
STEP 4	目標	<b>個々の患者の視点にたった服薬指導ができる</b>
	パフォーマンスレベル	個々の患者の身体状況や生活環境等、情報収集した内容を分析し、その結果から指導に必要な事項を導き出し、その患者に最適な服薬指導を行える。さらに収集した情報を検討して薬歴に記録し、薬物療法に活用できている。
	具体的目標1	個々の患者の病状経過を踏まえた薬物療法を分かり易く説明できる。
	具体的目標2	治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案できる。

「指導手引き(改訂版)」と現行モデコアSBO対比表(案)

現行「実務実習モデル・コアカリキュラム」		
(3) 薬局調剤を実践する		
LS	到達目標	備考
<b>《保険調剤業務の全体の流れ》</b>		
P301	◎保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 ◎保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。	再掲
<b>《処方せんの受付》</b>		
P302	◎処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。 ◎処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる。 ◎初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。	再掲 再掲 再掲
P303	◎初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。	再掲
P304	◎処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度) ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度) ◎患者が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) ◎患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる。(技能)	再掲 再掲 再掲 再掲
<b>《処方せんの審査と疑義照会》</b>		
P306	◎薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。(知識・技能)	
P307	◎疑義照会の行い方を身につける。(知識・態度)	再掲
P308	◎疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(技能・態度)	
<b>《服薬指導の基礎》</b>		
P316	◎適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能)	再掲
P317	◎薬歴管理の意義と重要性を説明できる。 ◎薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能) ◎薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。	再掲 再掲 再掲
P318	◎妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。	再掲
P319	◎患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能)	再掲
P320	◎自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。	再掲
<b>《服薬指導入門実習》</b>		
P321	◎指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能) ◎薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能) ◎患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能) ◎お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)	再掲 再掲 再掲 再掲
<b>《服薬指導実践実習》</b>		
P322	◎患者に共感的態度で接する。(態度) ◎患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能) ◎患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度) ◎患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度) ◎入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	
P323	◎調剤録の法的規制について説明できる。 ◎調剤録への記入事項について説明できる。 ◎調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。	再掲 再掲 再掲
P324	◎調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。	再掲
P325	◎処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。	再掲
<b>《調剤報酬》</b>		
P326	◎調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)	再掲
P327	◎薬剤師の技術評価の対象について説明できる。	再掲
<b>(6) 薬局業務を総合的に学ぶ</b>		
<b>《調剤録と処方せんの保管・管理》</b>		
<b>《総合実習》</b>		
P601	◎薬局業務を総合的に実践する。	
P602	◎患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。(態度) ◎薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。(態度)	

「指導手引き(改訂版)」  
D. 処方設計と薬物療法<薬物療法の実践>

STEP 1	目標	<b>医薬品情報や患者情報から治療の問題点を認識する</b>
	パフォーマンスレベル	薬物療法の有効性、服薬状況などの基本的な安全性の問題点を認識し、一連の情報を整理できている。 <b>具体的目標1</b> 医薬品に関する文書情報と患者から収集した情報から、患者の治療に問題があると気づくことができる。 <b>具体的目標2</b> 収集した情報の薬物療法への活用を試みる。
STEP 2	目標	<b>医薬品情報と患者情報を合わせた解析ができる</b>
	パフォーマンスレベル	収集した患者情報および処方内容から薬物療法に係る基本的情報の加工ができ、医薬品情報や治療ガイドラインを参考に、基本的な処方の想定と実際の処方内容から病態を確認できている。 <b>具体的目標1</b> 文書および患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報に加工できる。 <b>具体的目標2</b> 代表的な疾患に関して、処方内容が適当かどうか、エビデンスに基づいて評価できる。
STEP 3	目標	<b>薬物治療に関する基本的な評価と提案ができる</b>
	パフォーマンスレベル	薬歴や服薬指導を通して、薬物療法の効果を評価し問題点(副作用など)を発見・抽出し、対応策の提案を実践できている。 また、それらの内容を他の薬剤師と共有するための記録が適切に実施できている。 <b>具体的目標1</b> 薬物治療上の問題点を正確に抽出・解析し、問題点の対応策を提案できる。 <b>具体的目標2</b> 薬物治療の効果等に関して継続的な管理が適切に実践できる。
STEP 4	目標	<b>薬物治療の経過に応じた対応ができる</b>
	パフォーマンスレベル	薬物治療に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に判断して適切な対応ができ、より治療効果の高い処方提案ができている。 <b>具体的目標1</b> 効果不十分や副作用発現時の対応を適切に行うことができる。 <b>具体的目標2</b> 処方医との治療薬物に関するモニタリング情報の共有や治療薬変更の提案を実践できる。 <b>具体的目標3</b> 服薬指導した薬物治療に関する情報を分析し、他の薬剤師と共有できるよう記録できる。